作成日　２０１２年　２月１７日
改訂日　２０２３年　５月１７日

安全データシート

１．製品及び会社情報

製品名	KS クリーン　酸性
商品コード	ECS-2404　ECS-2420
使用用途	実験機材・一般製造工場業務用洗浄剤（PRTR 法非該当品）
会社名	高信化学株式会社
住所	群馬県高崎市大八木町 801
担当部門	営業企画室
電話番号	027-361-3221
ＦＡＸ番号	027-361-4007
緊急連絡先	027-361-3221

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 1B
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
特定標的臓器・全身毒性(単回)	区分 2（中枢神経系・血液系・呼吸器系・腎臓）

記述のないＧＨＳ分類は「区分に該当しない(分類対象外)」または「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素　絵表示

注意喚起語	危険。
危険有害性情報	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。 臓器障害のおそれの疑い（血液、腎臓、呼吸器・中枢神経)。
注意書き　安全対策	使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。 取扱いについては項目、**「８．暴露防止措置」**を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。容器は密閉しておくこと。
応急処置	項目、「**４．応急処置**」を参照のこと。
保管	項目、「**７．取扱い及び保管上の注意**」の「保管接触回避」参照。
廃棄	廃棄方法は政令で定める技術上の基準に従い処理をして廃棄する。

３．組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物（液体）
化学名（一般名）	KS クリーン　酸性

成分	CAS No	化審法番号	安衛法番号	含有量
有機酸	社外秘			30～35%
蟻酸含有	64-18-6	2-670	化審法と同じ	3.5%
非イオン性界面活性剤	社外秘			微量
陰イオン性界面活性剤	社外秘			微量
染料	社外秘			微量

４．応急処置

目に入った場合	直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼する。医師の手当てを受ける。 （コンタクトレンズは直ちに外す。）
皮膚に付着した場合	汚染された衣服等を脱がせ、石鹸で十分に洗い流し、刺激が残っていれば医師の当て、診断を受ける。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動させ、毛布等で保温し、半座位の状態で安静にさせる。気分が悪ければ医師の手当て、診断を受ける。
飲み込んだ場合	吐かせない。直ちに水で口をすすぎ、大量の水を飲ませる等の処置をするとともに医師の手当て診断を受ける。但し患者の意識が無い場合は口から何も与えてはならない。安静と経過観察が不可欠である。

５．火災時の措置

消火剤	本剤は燃えない。水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス。
使用しない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 出来る限り流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。
消火を行う者の保護	消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意	作業の際には保護具（ゴム手袋・マスク・眼鏡等）を着用。
保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。風上に留まる。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法	少量漏出の場合、ゴム手袋を着用し石灰やソーダ灰等で後、中和ウエス等で拭き取る。残りは大量の水で洗い流す。 大量漏出の場合、拡散を防止する為、土砂でせき止めし乾燥砂等を使い回収する。残りは石灰やソーダ灰等で中和後大量の水で洗い流す。 除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い技術的対策	眼、皮膚、着衣に直接触れぬよう、適切な防護具を着用。 設備対策を行い、局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。（禁煙） 容器を転倒させ、落下、衝撃等の取り扱いをしてはならない。

	接触、吸入、または飲み込んではならない。
	屋外又は換気の良い区域でのみ使用し環境への放出を避けること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保管　安全な保管条件	施錠して保管すること。 ベントのついた容器で保管すること。
	保管場所には水道などを設備し、漏洩事故が発生した場合、容易に洗い流せるようにする。 換気の良い場所で保管すること。
	保管場所の床面は水が浸入又は浸透しない構造とすること。
安全な容器包装材料	毒物劇物取締役法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用。

８．暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度	日本産業衛生学会（91 年度版）; 設定されていない。
設備対策	粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設定する。
	貯蔵又は使用する場合、眼洗浄及び安全シャワーの設置が望ましい。
保護具　呼吸用保護具	防塵マスク。
保護眼鏡	防護眼鏡。
保護手袋・靴	ゴム手袋等・ゴム長靴等。
保護衣	長袖作業衣等。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

９．物理的及び化学的性質

外観等	青色透明液体
臭い	特異臭
ｐＨ（1%水溶液）	ｐＨ 2.1 ± 0.5
比重（密度）	1.085± 0.1
溶解度（水）	自由に溶ける。

１０．安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱いでは安定。
危険有害反応可能性	強アルカリ性物質と激しく反応する。加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む有毒で腐食性のヒュームを生じる。
避けるべき条件	直射日光、強アルカリ性物質、強酸化性物質、金属、熱、シアン化物。
混触危険物質	異物(重金属、アルカリ、酸化され易い有機物質・無機物質等)の混入。
危険有害な分解生成物	COx、SOx、NOx
その他	避けるべき材料：鉄、銅、銅合金

１１．有害性情報

製品の有害情報

急性毒性（経口）	急性経口毒性(LD50)：＞5000 mg/kg(Rat) 区分に該当しない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	腐食性あり。皮膚に付着すると人により炎症や薬傷を起こす。原料データから有機酸が≧1%のため、区分 1B。
眼に重篤な損傷性・刺激性	腐食性あり。有機酸が≧1%のため、区分 1。

呼吸器感作性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。ただし毒性未知成分を含有しているため、区分に該当し ないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。ただし毒性未知成分を含有しているため、区分に該当し ないから分類できないに変更。
発がん性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。ただし毒性未知成分を含有しているため、区分に該当し ないから分類できないに変更。
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。ただし毒性未知成分を含有しているため、区分に該当し ないから分類できないに変更。
特定標的臓器毒性（単回）	本品は区分 2(中枢神経系、血液系、呼吸器系、腎臓) 有機酸が≧1%のため、区分 2(呼吸器系・中枢神経系・血液系・(呼吸器・腎臓)に該当。
特定標的臓器毒性（反復）	本品は分類できない危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないに該当。ただし毒性未知成分が1%以上なので、区分に該当しない から分類できないに変更。
誤えん有害性	本品は分類できない。 動粘性率が不明の為、分類できないに該当。

１２．環境影響情報

製品の環境影響情報

水生環境有害性 短期	加算法より、(毒性乗率×100×区分 1)+(10×区分 2)+区分 3 が14.511%であり、濃度限界(25%)未満の為、区分に該当しないに該当。ただし毒性 未知成分を含有している為、区分に該当しないから分類できないに変更。
水生環境有害性 長期	加算法より、(毒性乗率×100×区分 1)+(10×区分 2)+区分 3 が9.011%であり、濃度限界(25%)未満の為、区分に該当しないに該当。ただし毒性未 知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
残留性・分解性	データなし。
土壌中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さない。 環境中に放出する場合は廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性レベルを低い状態にし、法的基準を満たしていることを確認する。
容器及び包装	空容器を廃棄する場合、内容物を完全除去した後に法的に適切な処理をする。

１４．輸送上の注意

国内規制　陸上規制情報 安衛法、海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。

特別の安全対策　輸送前に容器が密閉されているか、液やガスの漏れがないか確認する。
容器の輸送および運搬は、常に固定した状態で行い、特にビンまたは缶は輸送中に衝突して破損することがないようにあらかじめ適当な緩衝物を使用する。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、食品や飼料と一緒に輸送してはならない。他の危険物や燃えやすい危険物に上積みをしない、他の危険物のそばにも積載しない。

１５．適用法令

労働安全衛生法	ラベル表示・SDS 交付義務対象物質（別表第 9 の 132）（ギ酸）
船舶安全法	危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1（腐食性物質）
港則法	施行規則第 12 条危険物告示別表（腐食性物質）
航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1（腐食性物質）
海洋汚染防止法	施行令別表第 1 有害液体物質（Ｙ類）　（ギ酸）
	施行令別表第 1 有害液体物質（Ｚ類）　（ギ酸以外の有機酸）

１６．引用文献

1) 原料メーカー安全データシート参照
2) 国際化学物質安全カード　　（ICSC）
3) 職場のあんぜんサイト（厚生労働省情報サイト）
4) NITE 化学物質総合情報提供シイテム（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）
5) NITE-Gmiccs（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）
6) ＧＨＳ混合物分類判定システム（経済産業省）

備考

洗浄後は速やかに水洗し、完全除去して下さい。
入手出来うる資料や文献を調査参照して記載しておりますが、全てのデータではない為情報洩れがあるかもしれません。使用に際しては用途・用法を遵守しご使用下さい。
又、記載のデータや評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。
ＳＤＳの内容は、新しい知見の発表や従来の説の改定、法律の改正により、内容の変更を致します。
重要な決定等にご利用される場合は出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
本データシートは安全の保証書ではないこと、また安全な取扱いを確保するための参考情報として、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものです。
記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。
化学物質の人体への影響ついては個人差が有り、影響は一様でないので安全対策に心がけて下さい。